

【資料2】

街道整備手法検討資料

街道整備手法検討資料

整備基本計画内第4・5章の現状課題や整備理念・方針に基づき各地区の整備の方向性や整備手法について以下に取りまとめる。

【鴨之巣～平岩地区】

◎整備の方向性

・平坦部

路面は現状維持とする。

・緩斜面部

路面の洗掘箇所の復旧・洗掘対策を行う

・急斜面部

路面保護対策を行う。



写真1 緩斜面部_現況



写真2 急斜面部_現況

◎整備手法

・洗掘箇所の復旧

現時点で洗掘が進行している箇所及び車両通行による轍が生じている箇所については、碎石を充填する方向で検討を進める。

碎石材については景観性に配慮し、周囲に調和するような色調の碎石材を選定する。

・緩斜面の洗掘対策

街道路面を表流する水により現在の洗掘が発生しているため、水量自体を抑制する手法として、横断的な排水構造物を設置し、表流水を適切に排水側溝へ流入させるよう促す。

排水構造物については、①土構造（盛土）②ゴム製の仕切り板③木材・擬木製品などが想定される。掘削深度や景観性なども踏まえて検討する。

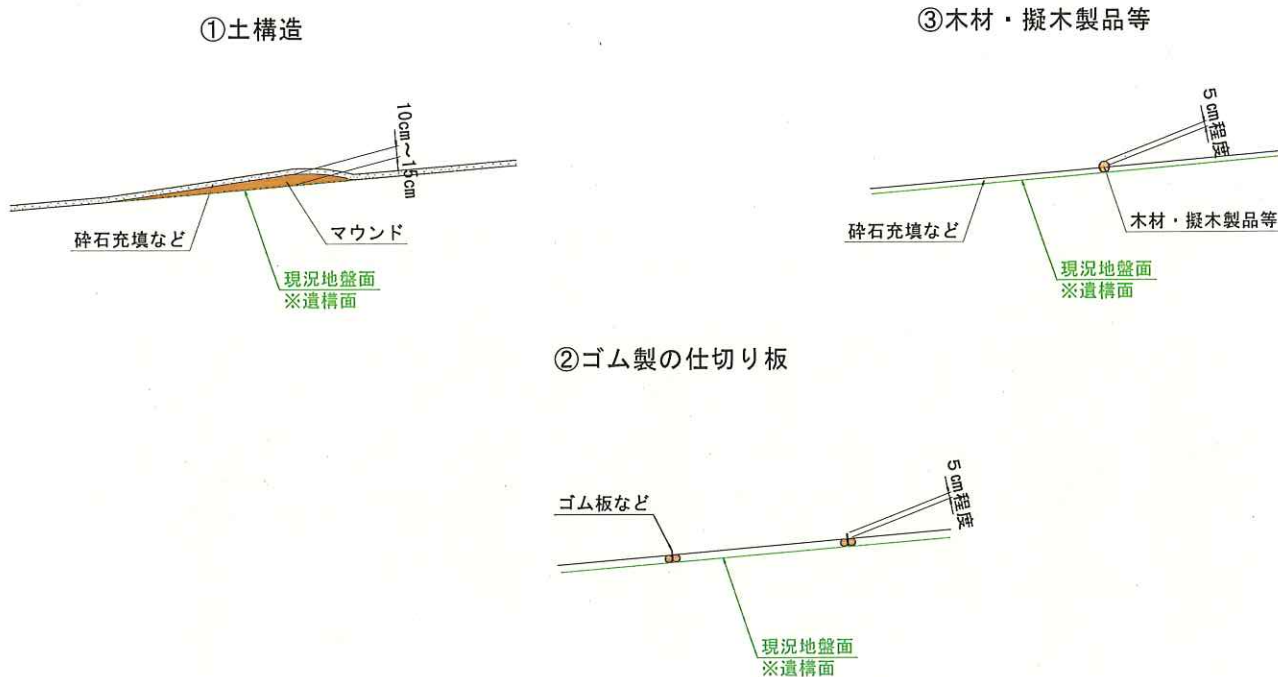


図1 横断排水構造物__各案断面図

・急斜面での路面保護対策

地区内東側の秋葉坂付近をはじめとして、斜面が急である区間は、現在敷設されている砕石が流出している。流出を抑制しつつ道路機能を保持できるハニカム材などの砕石保護材の設置を検討する。保護材の厚みと砕石層の厚みを同程度とし、設置に伴う掘削を最小限に抑制することを検討する。



写真3 砕石保護材__イメージ

【琵琶峠地区】

◎整備の方向性

・石畳整備箇所

現状維持とする。

・西側の地道

路面の洗掘箇所の復旧・洗掘対策を行う。また、必要に応じて、法面保護・水路の洗掘対策を行う。



写真4 石畳部_現況



写真5 西側地道部_現況

◎整備手法

・洗掘箇所の復旧

現時点で洗掘が進行している箇所は、土の充填による復旧を想定しているが、必要に応じて固化材を含有させ、洗掘が進行する速度を低下できるように検討する。

また、上方部（山側）の法面より下方部（谷側）の水路方向へ横断的な傾斜を設け、路面の表流水の水量を低減させる。

・路面の洗掘対策

排水構造物については、①土構造（盛土）②ゴム製の仕切り板③木材・擬木製品などが想定される。掘削深度や景観性なども踏まえて検討する。（【鴨之巣～平岩地区】の洗掘対策を参照。）

（・谷側水路の法面・水路床洗掘対策）

上記の対策により、路面を表流する水も谷側の水路へと誘導することになるため、谷側の法面を保護する必要性が生じる。①丸太材を組み合わせた法面保護工法②“植生土のう”や“じゃかご”による法面保護工法などを検討する。



写真6 法面对策
丸太組



写真7 法面对策
じゃかご



写真8 法面对策
植生土のう

また、上記の対策により水路への流入量も増加することとなり、水路床が洗掘されてしまう恐れがある。そのため、大型の石材を設置することで洗掘を防止できるよう検討する。
本件については継続的なモニタリングが必要となる。

琵琶峠地区（西側地道）_整備概念図

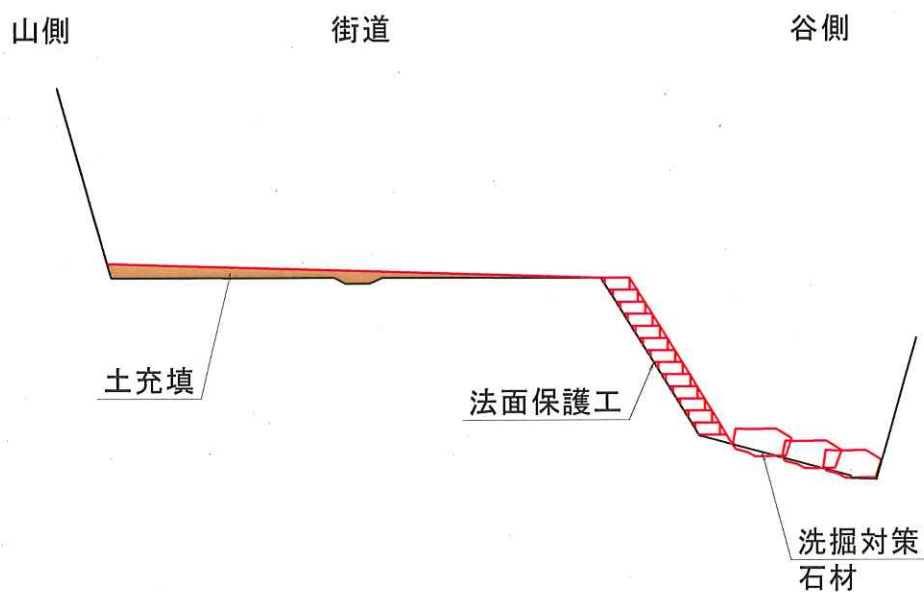


図2 琵琶峠地区（西側地道）_整備概念図

【十三峠 童子ヶ根地区】

◎整備の方向性

・平坦部

路面は現状維持とする。

・緩斜面部

路面の洗掘箇所の復旧・洗掘対策を行う。

・急斜面部

路面保護対策、既設水路（間伐材利用側溝）の更新を行う。



写真9 緩斜面部_現況



写真10 急斜面部_現況

◎整備手法

・洗掘箇所の復旧

現時点で洗掘が進行している箇所及び車両通行による轍が生じている箇所については、碎石を充填する方向で検討を進める。碎石材については、周囲に調和するような色調の碎石材を選定する。

・緩斜面の洗掘対策

街道路面を表流する水により現在の洗掘が発生しているため、水量自体を抑制する手法として、横断的な排水構造物を設置し、表流水を適切に排水側溝へ流入させるよう促す。

排水構造物については、①土構造（盛土）②ゴム製の仕切り板③木材・擬木製品などが想定される。掘削深度や景観性なども踏まえて検討する。（【鴨之巣～平岩地区】の洗掘対策を参照。）

・急斜面での路面保護対策

現在舗装が敷設されている範囲については、たたき舗装や自然色舗装などの景観舗装に統一して更新する。舗装路面に小溝などを設けて、側溝方向へ水流を誘導することを検討する。

また、特に傾斜が急である部分は、枕木や擬木製品などを段状に設置し、表流水を越流させ、表流速度を低下させることを検討する。急斜面部においても緩斜面部と同様の横断構造物の設置を検討する。

枕木等の段状設置

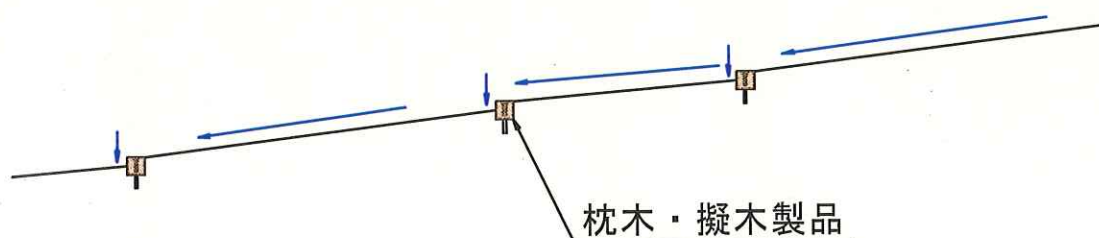


図3 枕木等の段状設置案_断面図



写真11 枕木等の段上設置案_イメージ

・既設水路の更新

街道に設置している既存の水路を、より耐久性が高く維持管理が容易なコンクリートU字側溝に更新することを検討する。コンクリートU字側溝に変更すると、史跡景観に影響を与えるため、景観性グレーチングを設置し、調和を図る。

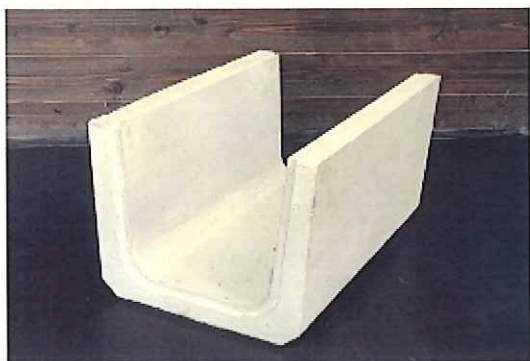


写真 12 U字側溝_イメージ

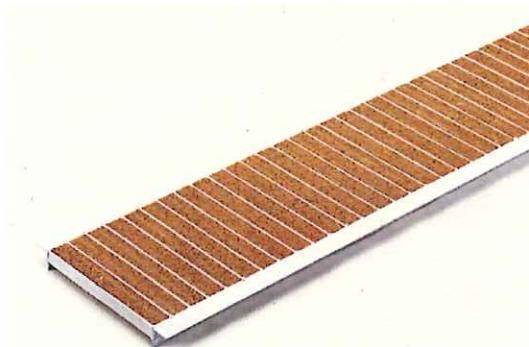


写真 13 景観グレーチング_イメージ

【十三峠 地藏坂～炭焼立場地区】

◎整備の方向性

・平坦部

路面は現状維持とする。

・緩斜面部

路面の洗掘箇所を復旧・洗掘対策を行う。

・急斜面部

路面保護対策、素掘り側溝の保護を講じる。



写真 14 緩斜面部_現況



写真 15 急斜面部_現況

◎整備手法

・洗掘箇所の復旧

現時点で洗掘が進行している箇所は、土の充填による復旧を想定しているが、必要に応じて固化材を含有させ、洗掘が進行する速度を低下できるように検討する。

・緩斜面の洗掘対策

街道路面を表流する水により現在の洗掘が発生しているため、水量自体を抑制する手法として、横断的な排水構造物を設置し、表流水を適切に排水側溝へ流入させるよう促す。

排水構造物については、①土構造（盛土）②ゴム製の仕切り板③木材・擬木製品などが想定される。掘削深度や景観性なども踏まえて検討する。（【鴨之巣～平岩地区】の洗掘対策を参照。）

・急斜面での路面保護対策

現在舗装が敷設されている範囲については、たたき舗装や自然色舗装などの景観舗装に統一して更新する。舗装路面に小溝などを設けて、側溝方向へ水流を誘導する。

また、特に急傾斜である部分は、枕木や擬木製品などを段状に設置し、表流水を越流させ、表流速度を低下させることを検討する。急斜面部においても緩斜面部と同様の横断構造物の設置を検討する。（【十三峠 童子ヶ根地区】の路面保護対策を参照。）

特に傾斜が急である部分（権現山一里塚付近など）については、最小限の範囲に抑えた上でU字側溝の設置を検討する。

・素掘り側溝の保護

街道の両端に素掘り側溝が設置されているが、周囲からの枝葉が流入し、あまり機能していない現状にある。そのため、清掃等の措置を行ったうえで、路床部分の対策を行う。サイズの大きい石材を設置するか、大・小の石材を交互に設置するなどし、路床部分の洗掘対策を行う。

素掘り側溝_保護対策

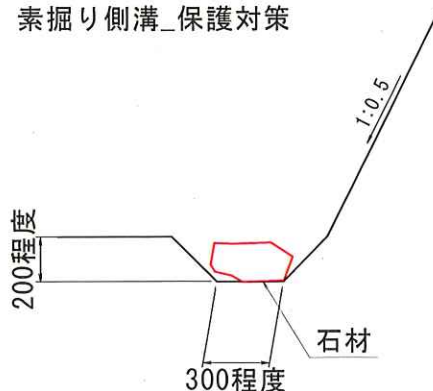


図4 素掘り側溝_保護対策概念図